

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年9月19日

【評価実施概要】

事業所番号	0970200663		
法人名	社会福祉法人美明会		
事業所名	特別養護老人ホーム義明苑グループホームくぼた		
所在地	栃木県足利市久保田町1220-1 (電話) 0284-74-2131		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成19年8月21日	評価確定日	平成19年9月19日

【情報提供票より】(平成19年8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤4人(うち兼務1人), 非常勤6人, 常勤換算8人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 1階建ての1階部分		
------	-------------------	--	--

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	8,100 円	その他の経費(月額)	・おむつ代-利用された分のみ ・光熱費-1日あたり500円 ・日用品・共益費-1日あたり400円	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	—	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要(平成19年8月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2			5 名
要介護3	1 名	要介護4			1 名
要介護5	1 名	要支援2			名
年齢	平均 87.3 歳	最低	82 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	長崎病院、かめいクリニック
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は社会福祉法人美明会が設立し、特別養護老人ホーム、ケアハウスや在宅介護支援センター、デイサービス事業等幅広く行っている。平成14年に隣接する敷地にグループホームくぼたを開設した。周囲は田園地帯と住宅地に囲まれ、静かな環境の中にある木造平屋建てのホームである。運営理念の「ゆったり生きる、うっとり味わう」をモットーに入居者が地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、職員一同理念の共有を図っている。運営推進会議においては活発な意見、評価、要望、助言等が行われている。地域とのつきあひも増えてきており、地域、行政、家族、ホームがより一体となって地域に密着したホームづくりが期待されるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)	前回の外部評価では、生活空間づくりとして視線止めやトイレの戸については、違和感なく、自然な対応がなされていた。入居者も自然体で自由に生活している様子がうかがえた。
	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)	自己評価の実施にあたり、全職員の意見、質の向上、改善点についてミーティングを行った。今後、評価研修実施や過去の評価結果を活かした取組みを検討しており、職員が一体となって課題改善に努める姿勢がうかがえた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6)	運営推進会議には入居者、入居者家族、行政、包括支援センター、地域住民代表に参画していただいている。法人からも特別養護老人ホームの施設長、総括部長が参加している。平成18年度は6回開催、平成19年度はこれまでに3回開催している。地域住民の代表から「ホームの活動に参加し、手伝いができたら」という声も聞かれた。また行政からの認知症を抱えている家族のプライバシーについてのアドバイス等もあり、綿密な連携を図りながら、提案や助言を運営に反映するよう努めている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)	今まで不満、苦情が寄せられたことは過去一度もない。積極的に家族から意見を聞きだす取組みがされている。利用料金等の支払時などで月1回は必ずホームに来ていただき、入居者の近況を報告したりしている。また、家族からの情報収集に努め、申し送りや会議の際に話し合いを行い、運営への反映を図っている。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)	月一度のクリーン活動や、ふれあいのつどい等に参加し、地域との交流を深める機会を増やしている。散歩や買い物の際に近隣との挨拶はしているが、日常的な交流はなく、今後の課題として、ホームの行事やイベントに来ていただくなど、ホームをアピールする機会づくりを模索している。
	重点項目④	

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆったり生きる、うっとり味わう」をキーワードとした理念を掲げている。「くぼた」の家庭的環境のもとで安心と尊厳のある生活をゆったりと過ごし、入居者・職員のみならず、地域の中にうっとりとはけ込むという意味も込めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員は朝礼の際に理念を唱和し、理念の共有を図っている。また、職員間でサービス提供（言葉かけ、態度、記録）についての話し合いの機会を設け、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	月一度のクリーン活動や、ふれあいのつどい等に参加して、地域との交流を深める機会を増やしている。散歩や買い物の際に近隣との挨拶はしているが、日常的な交流はなく、今後の課題として、ホームの行事やイベントに来ていただくなど、ホームをアピールする機会づくりを模索している。	○	運営推進会議において自治会の方にも参加依頼をしたり、地域の年間行事（敬老会等）に参加したり、ホーム独自の広報誌発行や、介護教室等の開催を検討するなどして、より一層、地域に馴染んでいくことを期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	研修の参加など、過去の評価結果をもとに課題等の改善に努めている。今回の自己評価を実施するにあたって、管理者が全職員に評価票を提示し、各職員が記入し、ミーティングを経て管理者がとりまとめた。		

グループホームくぼた

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、入居者の状況や活動状況を報告し、入居者家族等、構成メンバーからの意見を求め、その意見をサービスに活かした取り組みをしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人が窓口となって市の担当者との連携を図っている。ホームの実情やケアサービス、取り組みについて折りに触れて報告し、また、市主催の研修に参加してサービスの質の向上に努めている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームでの暮らしぶりや日常の様子を月に1回、法人の広報誌とともに伝えている。また、年賀状と暑中見舞いを入居者と共に書き、家族に送っている。金銭管理については千円程度の小遣いを持っている方は3名程いるが、その他についてはホームで立替払いをし、後日家族に報告している。	○	ホーム独自の広報誌なども検討しながら、定期的な報告を充実していくことに期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの苦情受付体制に関して重要事項説明書に明示し、ホーム内にも相談、苦情の受付について明示している。過去一度も不満、苦情が寄せられたことはない。	○	今後、ホームとして意見箱の設置も検討していることから、家族等の意見、不満、苦情などを運営に活かせるような取り組みの充実を期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係を保つことを重視し、職員の異動には配慮している。		

グループホームくぼた

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の質的向上を図り、業務体制を整備するうえで採用時研修、採用後3ヶ月以内、年2回の継続研修を実施している。研修後の報告等を全職員にすると共に、実務経験豊富な職員がアドバイザーとして職員の向上心を支えている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホームの質の確保のため交流会や県のグループホーム協会などの活動に参加してサービス向上に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	法人内の在宅介護支援センター、デイサービスセンター利用からの移行もあるが、入居してからも心理的不安を取り除くために家族の面会を多く実施している。毎月第3日曜日におやつバイキングを実施するなど、入居者の視点に立った柔軟な支援をすることでホームに馴染んでもらうよう努めている。また、馴染みの家具や布団の持ち込みをしてもらったり、医療機関、理容店等も以前と同一のところを利用するなどの配慮をしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「ゆったり生きる、うっとり味わう」をキーワードとした理念を掲げており、職員は入居者に「家族」として接し、入居者を理解しながら共感、感謝するという関係性づくりに努めている。		

グループホームくぼた

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、入居者の生活リズムや生活習慣を大切にしてい、一人ひとりの思い、希望、意向の把握について「今、本人はどうなのか？」という視点に立って検討している。支援するうえで職員の思いが重なる部分もあるが、管理者・職員は法人の他部署も経験していることで入居者の状況を深く見ることができていると考えている。	○	今後センター方式のアセスメントへの取り組みも検討しているので、より入居者の視点に立った支援を深めていくことを期待したい。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月1回9:30～11:00の時間帯で職員全員が参加し、介護計画に対してのカンファレンスを実施している。入居者の意向や職員のアイデアを反映しながらの介護計画作成のために職員間でホーム独自の勉強会をするなどしている。	○	各職員が入居者、家族と接する中で得た情報をより確実に活かしていくうえで、記録方法の検討なども期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月に1回見直しをし、状態の変化などがあつたときには随時見直しをしている。見直しの際は、家族に説明をし同意を得ている。カンファレンスやモニタリングを充実させながら、計画の見直しについて今後更に充実させていきたいと考えている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	敷地内に法人の特別養護老人ホーム、デイサービスセンター、支援センター等が併設されており、状況、要望に応じた対応ができるよう連携している。利用者同士の交流も出来ている。		

グループホームくぼた

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者、家族の希望により馴染みのかかりつけ医を受診している方もおり、家族と連携して支援している。また、ホームの主治医の医師の定期的回診がある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	管理者、職員は週1回の医師の回診時に指示を仰いでおり、その都度家族と話し合い、入居者にとってどうあったら良いか、ホームとしての対応しうる最大の支援方法を踏まえて、方針を家族と共有している。		
<p><b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p><b>1. その人らしい暮らしの支援</b></p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の尊厳を大切にしながら、入居者のペースに合わせて入居者が自分の時間を持てるように、言葉かけ、見守り等に配慮している。記録についても個人情報の保護を徹底して対応している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでの生活の流れは一応あるが、できるだけ入居者一人ひとりのペースに合わせた生活の支援をするよう配慮している。入浴、消灯、起床、食事等、一律に生活を制限するようなことはしていない。	○	集団生活の中での個々人のペースということに苦慮されている様子もうかがえるので、更なる研鑽を期待したい。また、「その人らしい生活」を知ることを課題と考えているので、アセスメントなども工夫しながら、更に支援を充実していくことにも期待したい。

グループホームくぼた

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食ではないが、好みや希望を取り入れた献立作りをしている。また、法人の管理栄養士指導のもとで季節の物を取り入れている。食事の準備等は職員がサポートしながら一緒に行っている。職員も入居者と同じ物を食べながら、目配りや気配りをしている姿がみられた。入居者の出来ることを大切にして、機能を維持していくことに配慮しながら支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望や入浴したい曜日を聞きながら、強制せずに支援している。時間や順番については、希望通りにいかない時もある。14:00～17:00の時間帯で支援しているが、一番風呂の希望が集中している。	○	入居者の希望が重なる中での対応の困難さもうかがえるが、工夫を重ねながら一人ひとりの希望にそって、くつろいだ入浴ができるように話し合いをしていくことを期待したい。
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の生活歴や持っている力を活かし、できること、得意なこと等を楽しみながらしていただく支援をしている。役割の見出しにくい方にも役割を見つけて孤立しないよう配慮している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	玄関の鍵は掛けていないが入居者自ら外出する方はいない。訪問時も夏の炎天もあって、外出する様子は見受けなかった。また誕生会等は誕生日にあたる方に行きたい場所を聞き、希望に沿った外出・外食の支援をしている。五感刺激の機会として、お花見等の支援もしているが月1回の散策に留まっている。	○	ホームとしては、職員が付き添って外に出る機会を増やしたり、入居者が自由に外に出る雰囲気づくりに努めたいと考えているので、その実現に期待したい。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの門扉は施錠しているが、玄関、居室は鍵をかけていない。職員が入居者の動線に目を配りながら支援している。	○	門扉に鍵をかけない努力はしているが、ホームとしては今後の課題ととらえている。日常的な外出支援の充実とあわせて、運営推進会議などとも連携しながら職員間での話し合いをしていくことに期待したい。

グループホームくぼた

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を月1回実施している。消防署の指導のもとでの訓練実施、報告書の提出もしている。	○	ホームとしては地域の方々と協力体制づくりを今後の課題と考えている。運営推進会議の場を活用したり、広報誌等で協力を呼びかけたり、地域の方々と共に訓練を実施するなどしながら、何かあったときに助け合える関係づくりを進めていくことに期待したい。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事摂取量を毎食確認し、法人の管理栄養士の指導を受けての支援をしている。刻み、粥食等を提供形態にも配慮している。水分摂取量についてはおおまかな確認をしながら支援をしている。	○	入居者の食べ物、飲み物の嗜好や苦手な物を把握し、生活習慣や日頃の様子を観察しながら柔軟な支援を日常積み上げていくことが、入居者の飲食量の低下を防ぎ、低下した時も個別支援の基礎となるので職員全員が日頃意識を持っての支援していくことに期待したい。水分摂取量についても必要に応じて、回数記録をとりながらの支援を取り入れることにも期待したい。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には、ソファや畳部屋など入居者が思い思いに過ごせるスペースがあり、設備や調度品も家庭的なものが用いられている。庭園の一角に池があり、金魚、鯉が放流されている。季節感を漂わせる風景が相まって居心地良い空間づくりがされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家具、布団等、入居者が使いなれた馴染みの物を持ち込んでいただき、使用している。空調設備も職員管理のもとで快適に過ごせるように配慮している。部屋間違い防止として花のプレート、氏名を掲げるなど、違和感なく安心して過ごせる配慮がされている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。